

9/17 3.74

大阪カジノ世界一危険

岸田政権安易に認定

- ギャンブルの中で、電子ゲーム機が最も依存性が高いことが知られているところ、大阪IRでは、カジノ機器の台数として「テーブルゲーム約470台、電子ゲーム約6,400台」が想定されているが、シンガポールIRと比較した場合、マリーナベイサンズ（テーブルゲーム600台、カジノ機器2,300台）、リゾートワールドセントーサ（テーブルゲーム550台、カジノ機器2,400台）であり、電子ゲーム機の台数がかなり多いため、ギャンブル依存対策についてより実効性を高める工夫が必要であると見受けられる。カジノ機器の台数が多いことを踏まえてギャンブル依存対策に係る具体的な取組の工夫があるか伺いたい。

大阪府・市のIR（カジノを中心とする統合型リゾート）で、電子賭博機（スロットマシンなど）6400台を詰め込む世界でも例のないカジノ計画について、計画を審査した国土交通省鶴見光広の審査委員会で、電子賭博機が多いと強く懸念する声があががてたことなどが10日、鶴見光広の講話でわかりました。

大阪IRの区域整備計画（カジノ計画）の審査会だ。2004年5月から2005年4月まで行われました。この中で、大阪の計画では、パカラやブラックジャックなどの賭博を行うテーブル数470台、電子賭博機6400台という構成になっており、諸外国の最大カジノと比較しても電子賭博機が数倍多くなっていることが論点になりました。

鶴見光広は「ギャンブルの中で電子ゲーム（賭博）機が最も依存性が高い」

と強調しているのが特徴的な対策をとることに対する疑問がある。岸田政権は、この結果を踏まえ、「電子賭博機の危険性を実証した結果がなければ、『過度な依存対策をとる』と強調しあつた」。

この結果を踏まえ、「電子賭博機の危険性を実証した結果がなければ、『過度な依存対策をとる』と強調しあつた」。

大阪カジノ計画についての審査結果の詳報
スントー日本株式会社
岸田の質問から